

社会科歴史学習における主体的な学びの二つの要素

—児童解釈型歴史学習の実際—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

氏家 拓也

過去の社会的事象を基に思考する社会科歴史学習では、児童が歴史を描く一人になって過去の情報を読み解く体験活動を通して公民的な資質・能力が育まれる。このような資質・能力を育む上で主体的な学びの要素となり得る「協働」と「情報活用」の二つの要素に着目し、児童が主体となって歴史を描く「児童解釈型歴史学習」の単元構成を計画・実践し、児童が主体的な学びに向かう社会科歴史学習の可能性を検証し、その効果と課題を明らかにした。

協働的学習マネジメントに基づいた遊びと学びが連続する歴史家体験活動を通して、個々で取り扱う情報や解釈が異なることに気付き始めた児童は、協働して考えたり、学習問題に対して粘り強く学んだりするようになった。児童解釈型歴史学習は、歴史家体験活動と対話場面を取り入れることによって歴史を主体的に学ぶようになった点で効果があったと考える。また、協働的学習マネジメントがある学級には、自分たちが暮らす社会とのつながりが生まれ、広がりの中で思考を深めていくことが可能になり、歴史学習が社会性を高めていくことにもつながると言える。